

Notte An dalusa

Alvaro Stronccone

アンダルシアの夜

アルヴァーロ・ストロンコーネ 作曲

アンダルシアはスペインの南部でグラナダなど長くアラブ(ムーア人)が支配したため、イスラムの遺跡の多いところ。

ワルツで書かれているが、同一作家のこともあり、「カディスへの挨拶」の味に似たものがある。

スペイン舞曲のリズムと形をとった或はスペイン風何々と名付けた曲は多いが、筆者はそうした曲よりもむしろムーア人が齎した旋律の方にスペインを感じる。

「ロマンの薫り」第二集にも本作者の二曲と「アルハンブラの思い出」などを加えて、ややスペイン色が目だったかも知れないが、もっと生々しいバルドメロ・カテウラ(スペインの著名なマンドリニスト)のものも加えたかったのである。

しかしこれは奏者が楽譜なしで、アドリブで即興的な演奏を挿入できる技術を持つ人たちの集まりでないと妙味が出せないのではないかと思って加えることに躊躇したのである。

追加資料

遺稿

中野二郎編著

「マンドリン ロマンの薫り 2集」より